

国鉄「分割・民営化」阻止ノ三里塚二期着工粉碎ノ

部財界が国鉄「籠」を粉砕 さんざん喰い飽のにしてきたあげくに...

労働者

日刊 労働者 千葉

86. 12. 19
No. 2435

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七二〇七

労組連合 差別 低賃金 労組連合 差別 低賃金

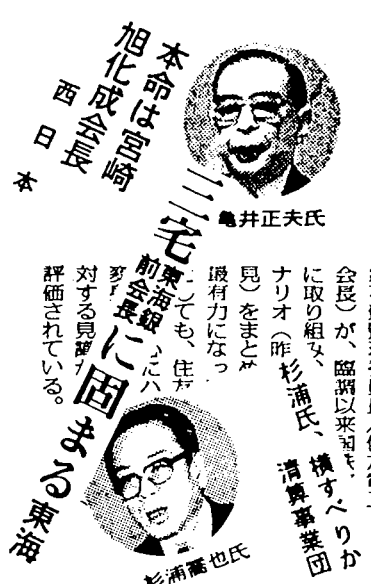
設立委員会は、十二月十一日、第一回会合を開き「新会社」での職員採用の基準なるものを発表し、さらに十九日には労働条件を決定するという。そこでは設立委員会が「在勤中の勤務成績」なるものを一方的に判定し、大量首切りの差別・選別の結果を文句いわずに呑め、あげくに労働条件も勝手に決めてそれに従え、嫌なら来るなという。ここに分割・民営化の敵の狙いのすべてがある。こんなやり方などうして黙って従えようか。断じて否である。

いずれも国鉄を食いものに
肥え太ってきた設立委員
「労働組合」自ら低賃金
合理化首切り、労働強化の地獄へ

第一回会合で、委員長に経団連会長・齊藤英四郎、委員長代理に国鉄再建監理委員長・亀井正夫が選ばれ、新会社の採用基準、労働条件について協議したという。

そもそも委員長・齊藤や、代理・亀井らは、国鉄を食いものに肥え太ってきた財界のボスどもであり、亀井に至っては国鉄に年間数十億円もの電線などを納入している住友電工の会長であり、亀井のグループである住友電工・住友建設・住友金属・日本電気四社で八三年には国鉄から一六〇億円の発注を受け、しかも、再建監理委の委員長になってから電線など資材納入額は急増した。また、住友不動産は、国鉄用地の分捕り合戦に加わり分割・民営化によって、ほしいままに、うまい汁を吸いあげようというのだ。

亀井再建監理が最有力 東日本



東日本会社は、亀井正夫（再建監理委員長）が、臨調以来、住友電工に取組む、構すべりかナリオ（杉浦氏、清算事業団）をまとめる取組む、最有力な住友電工の代表として、評価されている。

日の丸をかかげ 労使協調で
共産主義と対決する「新組合」

志摩いわく、「毎年春、賃上げを要求し、応じなければストを打つような労働運動はやめたい」の言葉にあからさまに示されている。 動労・松崎、志摩らの「鉄道労連」とは、労働者の権利を守る労働組合ではなく資本・当局の代弁者に牛耳られた産業報国会だ。労働組合の死の次には戦争への道しかない。